

【表千家茶道部 流生会】

一期一会

今この瞬間に生じた縁が、心をつなぐ一瞬の一期一会。



部長
早田 麻里さん
(工学部3年)

文教キャンパス学生会館2階和室がお稽古場です。一緒に茶道を楽しみませんか。



部員は23名。「熱心で礼儀正しい人ばかりです」と井口史子先生(前列右端)。

茶の湯の心に学び、憩う

畳のすがすがしい香りに包まれた和室で、背筋をすっと伸ばして正座している部員たち。その視線の先では、亭主役の部員が黙々とお茶を点てています。煩雑な日常を忘れる静寂な空気。時折、お茶碗に注がれる水の音や茶せんを動かす音が心地よく響きます。「茶道の魅力はこの静かで落ち着いた雰囲気。とても癒されます。また、季節に応じたお道具やお菓子を通して四季を楽しめるのも面白いと思います」と話すのは、部長の早田麻里さん(工学部3年)。「私もそうでしたが、部員は大学で初めて茶道を習う人が多いです。立ち居振る舞いやお茶を点てる手順など、難しいと思われるようですが練習を積み重ねれば必ずできるようになります」。所作のひとつひとつは洗練され、とてもシンプル。覚えるとお茶を点てるのが楽しくなってくるそうです。

稽古は週に一回。「学外の表千家の先生に指導をいただいています。礼儀作法や相手思いやる、おもてなしの心」など、日常生活に通じる大切なことを学んでいます。

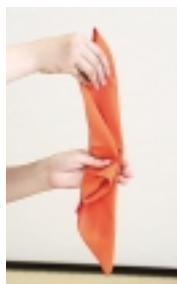
日頃の稽古の成果は、夏季茶会(6月)と冬季茶会(12月)で披露されます。「お茶会には、OBや他の大学の茶道部の方、留学生や友人、家族など大勢来てくれます。茶道は運動部のように点数が出るものではないので、お客様の喜ぶ顔を見て成果を実感しています」。



指先の動き、道具の置き方など、丁寧に指導する原田照代先生。



「茶道をしていると心が落ち着きます」と副部長の松浦理恵さん(右端)。



入部して最初に習う「袱紗さばき」。



お菓子にも季節の趣き